

琵琶湖に眠る水中遺跡の魅力発掘

水中遺跡とは

琵琶湖の湖底や水辺には、古代の人々の生活痕跡が数多く眠っており、これらは水中に存在することから「水中遺跡」と呼ばれています。水中遺跡が形成された背景には、地震などによる地盤沈下や水位上昇、琵琶湖を往来した船舶の沈没、水辺で行われた祭祀などが考えられます。滋賀県内では77か所（うち高島市14か所）もの水中遺跡が確認されています。これらは琵琶湖と共に生きてき

た人々の歴史を今に伝えるもので、高島市をはじめ滋賀県の特徴ある埋蔵文化財の一つです。

発見のきっかけ

琵琶湖における水中遺跡の発見は、大正13（1924）年、葛籠尾崎沖（長浜市湖北町）で地元漁師がイサザ漁中に土器を引き揚げたことが始まりでした。湖底からは縄文時代から平安時代にかけての約200点もの土器が発見され、その多くが完全な

湖上交通の要衝

形であったことは大きな驚きでした。高島市内では、琵琶湖総合開発事業に伴う森浜遺跡の発掘調査（昭和52（1977）年）以降、西浜遺跡、針江浜遺跡、外ヶ浜・源氏浜遺跡、大溝湖底遺跡などの水中遺跡の調査が行われ、数々の発見がありました。

市内の水中遺跡で特に注目されるのは、新旭町木津から針江に続く浜堤に広がる弥生時代後期～古墳時代前期の森浜遺跡です。発掘調査は、

三角洲上の湖岸に鋼矢板を打ち込み（深さ8m）、ポンプで常時排水を行うという大規模なものでした。浸水と地下水を遮断して行われた調査では、湖西地域をはじめとする近畿地方の土器に加え、北陸や伊勢湾沿岸地域の特徴的な土器や木製品が多数発見されました。これらの出土品から、森浜遺跡は各地域からの人やモノの流れが交わる地点であり、湖上

交通や陸路を管理・掌握する上で重要な港湾的機能を持つ遺跡であったと考えられています。

水中遺跡の魅力に迫る

高島市の水中遺跡調査の先駆けとなった森浜遺跡や、近年の調査研究の進展が著しい葛籠尾崎湖底遺跡をはじめとする、琵琶湖に眠る水中遺跡をテーマにした講演会や展示会が高島市で開催されます。琵琶湖に眠る水中遺跡とその魅力の最新動向を学ぶことができる機会です。ぜひご参加ください。

問 中江藤樹・たかしまミュージアム
☎（32）03330

〈琵琶湖に眠る水中遺跡 講演会〉

【日時】11月2日⑩ 13時～15時
【会場】今津東コミュニティセンター
【入場】無料（事前申込不要、先着150人）
【内容】「水中遺跡が語る人々の暮らし」
田中 稔さん
（滋賀県文化財保護課技師）
「葛籠尾崎湖底遺跡のなぞを解く！」
矢野 健一さん
（立命館大学文学部特別任用教授）

〈ロビー展示〉

【日時】11月3日⑩～16日⑩（4日、10日：休館日）
【会場】中江藤樹・たかしまミュージアム
【展示品】森浜遺跡・針江浜遺跡出土品（高島市）
粟津湖底遺跡出土品（大津市）
塩津港遺跡出土品（長浜市）など

（この事業は、滋賀県による北の近江振興プロジェクト「琵琶湖に眠る水中遺跡魅力発掘・発信事業」の一環です。）

編集
雑感

5年に1回の国勢調査がついに始まりました！一人ひとりのデータが、教育、福祉、インフラ整備などの政策に活用され、より良い暮らしを実現するために活用されます。回答は、インターネットや郵送で手軽に行えます。正確な統計が得られることで、地域のニーズに応じた支援も可能となります。国勢調査は未来への投資であり、社会を支える大切な活動です。皆さんご協力をよろしくお願いします。（M）



広報たかしま

令和7年

10

月号
No.309発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒510-0802 滋賀県高島市新旭町北畑のろ番地☎0740(25)8000(代)
🌐 <https://www.city.takashima.lg.jp>
✉ t-info@city.takashima.lg.jp